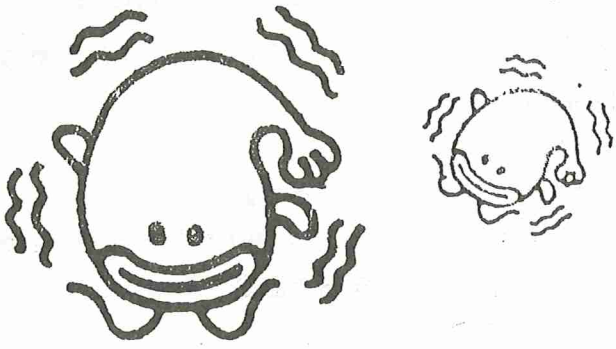
衣川台なまず通信



第１４号
‘０８年７月　１日 発行
衣川台 自 主 防 災 部

第１回防災訓練

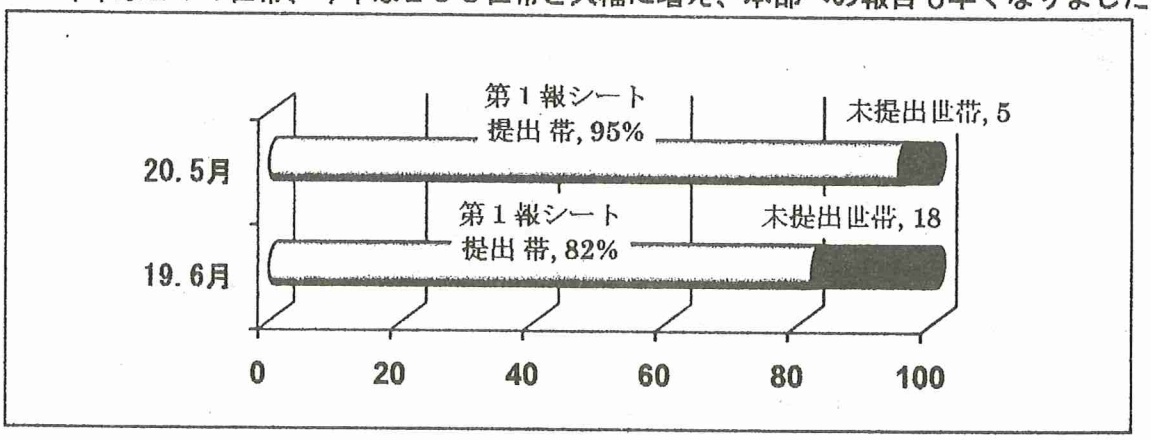
副部長　原田隆司

今年度第１回の防災訓練が５月２５日に行われました

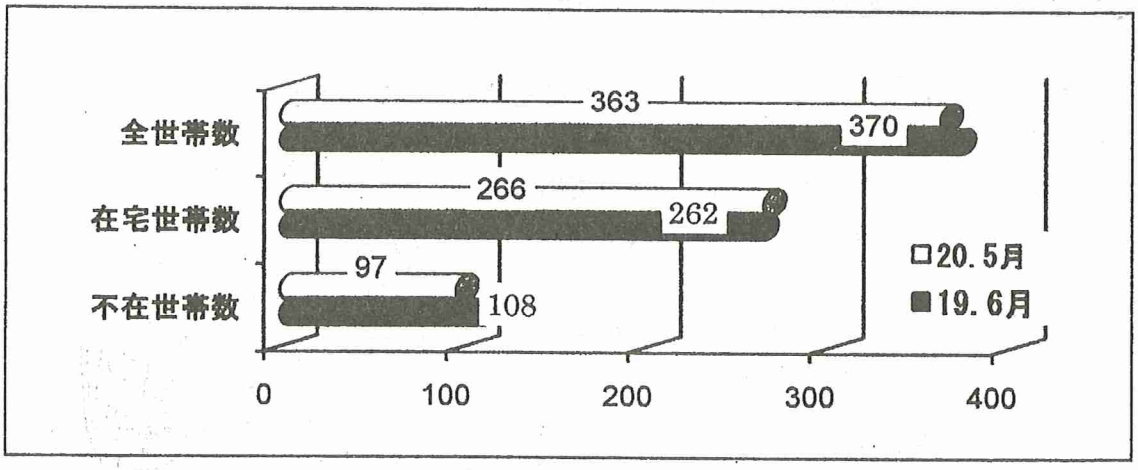
1.　盛り上がった安否確認訓練

ア、第一報安否確認シート提出世帯状況

昨年は２１４世帯、今年は２５３世帯と大幅に増え、本部への報告も早くなりました。



イ、在宅状況は下表のとおり、みなさんの関心が高まってきています。



ウ.　本部関係の訓練では、本部員の招集・集合、本部の設置ならびに本部からの情報発信・留意者安否確認・活動班出動指示と伝達の訓練をしました。

2.　助け合いの仕組みを学ぶ　新しい取り組みが行われた！

（南公園約 100 名参加）

次の４つケースについて、本部員による模擬訓練をしました。

ケースＡ：　全員が無事（今回の安否確認訓練のケース）

ケースＢ：グループ員から安否の報告がないので、その家まで行って確認をする。

ケースＣ：グループリーダーが怪我をし、誰かが代理をする。消火班の出動を要請⇒出動。

ケースＤ：組長が怪我をして誰かが代理をする。救出班と救護班の出動を要請⇒出動

ぶっつけ本番の模擬訓練でしたが、戸惑いながらも真剣にやって頂きました。

3．反　省

訓練終了後、今回の訓練の反省会をしました（出席約４０名）

安否確認訓練は、これまでの３回の訓練の反省を踏まえ、多くの点を改善した結果、組長、グループリーダー、皆様方のご理解も深まり、一応満足できるレベルまで達成できたと思います。更なる改善と、定着がこれからの課題です。

南公園での模擬訓練では、助け合い（共助）の仕組みの理解が深まりました。参加者をもっと増やすためには、訓練の内容をためになり楽しめるものにする事と、ＰＲの方法を工夫する必要があると思っています。

第一回防災訓練にご参加・ご協力頂きましてありがとうございました。
最近各地で被害が起きています。次回は大勢の参加をお待ちしています。

防災ひと口メモ　　その９

家族で防災訓練を

家族の分担を決めておきましょう

もしも災害が起きたときのために、家族で防災会議を開き、つぎのようなことを、あらかじめ決めて、いざというときに備えましょう。

☆　非常持ち出し品などの置き場所と、もって出る人

☆　電気器具のプラグ抜き、ブレーカーを切る人

☆　消火活動をする人

☆　もしも家族がバラバラになってしまった場合の、連絡方法や集合する避難所など・・・・

我が家の震災体験

１０組　　中嶋　伸子

今年５月の中国四川省大地震、そして６月14日の岩手・宮城内陸地震と地震災害のニュースが毎日のように報じられています。関西に住む私たちにとっても約１３年前の阪神淡路大震災当時の記憶がまだ生々しく脳裏に残っていますが、私たち家族は当時大阪府豊中市に住んでいて、この震災を身近に経験しました。

豊中市は震度６を記録し、大阪府では一番被害が大きかったとされています。幸い私たちの住んでいた地域は大きな被害は少なく、我が家は低層の鉄筋コンクリート造集合住宅であった為、大きな揺れにも拘わらず、本棚の本や食器棚のお茶碗が落ちたり、一時断水と停電があった程度でした。

ところで、当時私は子どもが通う小学校のＰＴＡで、児童の登下校や学校外の安全指導等を担当する委員会の委員長をしておりました。そのため、まず最初に頭に浮かんだのが「おそらく学校は臨時休校になるだろうが連絡はつくのか。」「通学路はどうなっているか？」「学校はどうなっているか？」ということでした。

七時を過ぎて、校長先生から電話がかかってきました。（非常時の全家庭への連絡は、校長→私→８人の副委員長→集団登校班の委員→各家庭となっていました）「なんとか車で学校へたどり着いたが、学校も道も大変な状況なので自宅待機するように連絡を回してほしい」ということでした。

自宅からの電話や公衆電話で伝わった副委員もありましたが、後は繋がらず、登校時間も近づいてきたので、自転車で校区内を巡回しました。道にはほとんど人影もなく、驚くほどの静けさです。古そうな日本家屋の家の瓦が殆ど落ち、砂と共に道路に散乱し、塀が倒れて道を塞いでいたり、大きな石垣の石が崩れてあたりにころがっていたり・・と、もし通学時間に地震が起こっていたら大変なことになっていたと恐ろしくなりました。

それでも登校班の集合場所に出て来ている子どもも何人かいて、家に帰って自宅待機するように伝えて学校へたどり着きました。学校はというと、体育館脇から水道管が破裂して水が高く吹き上がっていたり、校舎の窓全体に亀裂が入っていたり、職員室に入ると先生方の机が麻雀でシャッフルをしたような状態で、引き出しが飛び出して書類などが散乱していました。本棚も倒れ、教室ではテレビが落ちていました。ガラスでケガをして包帯をしている先生もおられました。

その後，各地区副委員長さん宅を回り、地区内危険個所のチェックをお願いし翌日にはまとめて「校区内危険個所マップ」を作成し、学校で配ってもらいました。

地震翌日から、余震におびえながら厚めの毛糸の帽子などを被らせ、子ども達を見送っていたことがつい最近の事のように思い出されます。

うらへ

さて、我が家周辺の被害が小さかったとはいえ、もし地震の時間が後少し遅かったならば、主人はいつも通っていた阪神高速で横倒しの巻き添えになっていたかも知れず、それを思うとぞっとします。

主人は地震当日の午前９時頃、車で被災地の神戸六甲アイランドにある職場へ向けて出発しましたが、途中の西宮あたりが大変な状況で、その先に進めず引き返してきました。

主人の話によれば、甲子園の辺りでスーパーがぺしゃんこに潰れて上の階のマンションが積み木を崩した様になっていたり、西宮の住宅地では沢山の潰れた住宅から煙が立ち昇って、その上空をヘリコプターが何機も旋回していたそうです。

また潰れた住宅の前に「この下に人が閉じこめられています。助けてください。」と書かれた紙が板に貼られて立てかけてあったり、新幹線の高架下では、道路に線路の砂利が落ちて山の様に積み上がり、見上げてみると枕木が付いたレールが宙にぶら下がっているなど、大変な惨状だったようです。

その後夜８時過ぎ、先に到着した上司の指示で、とりあえずおにぎり等あり合わせの食料や水のペットボトル、寝袋を持って主人は再度出かけていきました。

街の照明も信号機も点灯しない真っ暗闇の中、ガタガタにうねった道を辿りながらやっとのことで職場に着きましたが、道中では余震があるためか、厳寒期にも拘わらず、屋外で焚き火をして暖をとっている被災地の人たちを沢山見かけたそうです。六甲アイランドへ渡る橋は大きな段差が出来ており、その辺にころがっていたコンクリート片などを積んでやっと通れたとのことでした。

２日後帰ってきて、今度はいつ帰れるかわからないと言うので、スーパーへ追加の水や食料などを買い出しに行きました。スーパーの大きなガラスは割れて何カ所もブルーシートで覆われています。調理せずに食べられるパンや缶詰などの陳列棚は、みごとに空っぽでした。

宝塚線沿線にあるため、被害の大きかった宝塚方面からリュックを担いだ人達がたくさん買い出しに来られていたのです。

普段から家に、備蓄用の食料を保管しておかないといけないという教訓になりました。

六甲アイランドでは、主人は住民の方達に混じって配給のおにぎりを並んで貰っていたそうです。また電気は大丈夫でしたが、水道の復旧がかなり遅れ、特に水洗トイレの流し水の確保に大変苦労したそうです。この体験から、我が家ではお風呂の残り湯を流さずに、非常用においておく様にしています。

まだまだ書ききれませんが、皆さんの防災の参考になれば幸いです。